

令和4年度 朝日山地森林生態系保護地域部会

5月31日(火)、新型コロナウイルスまん延防止の観点から令和3年度と同じく、「朝日山地森林生態系保護地域部会」をWeb会議にて開催しました。

今年度は、開会に先立ち、東北森林管理局富岡計画課長より「本年度の朝日山地森林生態系保護地域における取組がより効果的なものになるよう、昨年度の合同パトロール等の巡視活動の取組や保護林のモニタリング調査結果、人工林から天然林に誘導する取組、朝日自然塾及びシカの確認情報について審議・アドバイスいただく予定になっております。コロナ対応により、リモートでの実施になりますが、活発なご議論をお願いしたい」との挨拶の後、3名の委員変更者を含め出席者の紹介を行いました。



会議風景

座長として選出された山形大学農学部菊池准教授からの「朝日山地森林生態系保護地域は流域の中では、一番上流部に位置し、この最上流部における、様々な出来事・事象・現象に関しては流域を通じて中・下流域すべてにその影響が波及する、ひいては海までもその影響は波及する可能性がある。かなり多岐にわたるような内容になっているが、一つ一つ事務局含めて丁寧に説明しながら、様々な意見を頂きたい」との挨拶ののち、令和3年度「東北森林管理局保護林管理委員会」の概要報告をはじめ、「巡視

活動報告」、「保護林のモニタリング調査結果」、「人工林から天然林に誘導する取組」、「朝日自然塾、ニホンジカの確認場」及び「関東森林管理局(下越森林管理署村上支署)の連絡事項」について、情報共有や議論を行いました。

委員からの質疑では、特に、「保護林のモニタリング調査結果に対するシカ対策」がありました。

内容は、「他地域では、シカ害が発生してから生態系の崩壊がかなり早いスピードで起きている。モニタリング結果をどう活かすのか、出来るだけ事前に、関係各位で話し合いをして検討すべき」や「チョウ類のトランセクト調査を行ってはどうか」との意見を頂き、シカ対策について関心の高さが窺えました。

最後に、朝日センター中嶋所長から「本日いただきました意見は、今後の朝日森林生態系保護地域の保護管理に反映させ、しっかりと活かしていきたい」との閉会の挨拶により終了となりました。



会議風景